

令和3年度 学校評価報告書

令和4年3月30日

北海道教育委員会教育長 様

北海道鶴川高等学校長 三 村 素 道

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 生徒のより良い自己実現を目指し、絶えず研鑽に励み、専門性を高め、質の高い教育活動の実践に努めるとともに、生徒が「行きたい」と思う学校づくりに努める。
- (2) 学校課題の解決を図るため、地域や専門機関等との連携を図りながら、積極的に教育活動の改善・充実に努める。
- (3) 学校経営参画意識の高揚を図り、組織体としての機能を高め、協働体制の確立に努める。
- (4) 連携型中高一貫教育等の充実に努め、地域から信頼され、「生かしたい」と思われる学校づくりに努める。
- (5) 地域や保護者等との連携・協調に努め、教育環境の整備に努めるとともに、保護者が「行かせたい」と思う学校づくりに努める。
- (6) 学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」を推進し、その具現化を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のより良い自己実現を目指し、絶えず研鑽に励み、専門性を高め、質の高い教育活動の実践に努めるとともに、生徒が「行きたい」と思う学校づくりに努めた。</li> <li>・学校課題の解決を図るため、地域や専門機関等との連携を図りながら、積極的に教育活動の改善・充実に努めた。</li> <li>・地域や保護者等との連携・協調に努め、教育環境の整備に努めるとともに、保護者が「行かせたい」と思う学校づくりに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫小牧市からの受験生が増加傾向にあるのは大きな成果だと感じます。日頃の先生方の地道な教育活動があつてこそ。今後鶴川高等学校で学びたいと思う生徒や保護者が増えてくるのではないかと。</li> <li>・高校魅力化コンソーシアムの設立など、積極的に教育活動の改善・充実に努めている点で高く評価できる。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の学校行事や高校魅力化に関わる業務等、新たに増えた行事や業務も含め、持続可能な形になるよう、効率化や地域との更なる協働を検討する。</li> <li>・一般教科でも地域や専門機関と連携する場面を増やしていく。</li> <li>・生徒、保護者のニーズに応じた進路実績をつくる。</li> <li>・中高教員のより頻繁な意見交換、情報共有の場の設置する。</li> <li>・地域、小中学校や地域のニーズ分析を行う。</li> <li>・町からの補助の内容を地域や保護者からの要望を聞きながら町と協議していく。(JR定期券の補助、鶴川中学生への補助増等〈クロムブック代、制服代、模試代、教科書代等の補助等)。</li> </ul>	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域をキャンパスとした探究的な学び「むかわ学」を効果的に実施した。</li> <li>・地域をキャンパスとし生徒の特性や能力を伸張させる「チャレンジスタディ」を効果的に実施した。</li> <li>・各教科・科目の指導や各種配信等においてClassiを活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むかわ学等で使用している学校のプレゼンテーションソフトをGoogleスライドだけでなく中学校で使用しているパワーポイント等も含めて使用させた方が効果的ではないかと。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒評価から英語の授業などアクティブラーニングの視点での深い学びができているとの意見が多くあったので、次年度も継続する。</li> <li>・2, 3年生の保護者にも協力を求め、ひとり1台端末を実現し、ICTによる個別最適な学びを進める。</li> </ul>	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入期指導の確実な実施及び、高校生としての身だしなみやマナー、公共の場でのルールの徹底を行った。</li> <li>・いじめの早期発見・早期対応による解決ができた。</li> <li>・生徒会活動等における生徒の主体的な活動の支援を行った。</li> <li>・働き方改革を踏まえ、前例にとらわれない地域と連携した課外活動（部活動・生徒会活動等）の効果的な実施を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代に応じた生徒指導はとても大変だと感じる。日頃から生徒との人間関係の構築に日夜苦慮されているのではないのでしょうか。子どもたちを取り巻く環境をいかに充実させていけるかが大切だと思います。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在授業で行っているGoogleソフトを有効に活用し、生徒同士の双方向のやりとりを増やしていきたい。ただし、オンライン上の約束事もしっかり指導していく。</li> <li>・ハイパーQUやホットなどのアンケートを活用し、心の教育（CST）の検証を実施する。</li> <li>・部活動の完全地域移行または部活動の完全休止期間の設定などを行い、教員の時間外勤務を縮減する。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で育成を目指す資質・能力に基づく進路シラバスの検証及び改善を行った。</li> <li>・生徒及び保護者の大学進学に係る意識の啓蒙の充実及び進路意識の高揚を図るための効果的な情報提供や進路学習の実施した。</li> <li>・地域等との連携によるキャリア教育の一層の充実を図った。</li> <li>・地域の企業等と連携したデュアルシステムを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の特性や能力を伸ばすべく、地域との関わりの中で、多様な人と主体的に協働できる場を増やし、学校推薦や総合型選抜試験等で大学進学を目指せる生徒が多くなるよう期待します。</li> <li>・コロナの影響もあったとは思いますが、1年次の3者面談を実施して欲しい。</li> <li>・鶴川高校卒業生が、大学進学後（JAカレッジ等の専門学校を含め）にむかわ町で就職しているケースが見られる。地域と継続連携した取組の結果であると感じる。</li> <li>・①にもある通り、進路実績をつくることが大切だと思います。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度もインターンシップ、デュアルシステムなど数々の行事毎に、効果的に運営されているのか検証する。</li> <li>・保護者面談や三者面談は1・2年生は夏休み、3年生は5月～など、学年にあった時期を検討し、シラバス等に組み込む。</li> <li>・公営塾と連携し、早い段階から上級学校を見据えた指導を行う。</li> <li>・デュアルシステムとインターンシップのメリットを活かした進路指導の実現を図る。</li> </ul>	
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援が必要な生徒の具体的な支援計画の作成及び全校体制での支援の徹底を図った。</li> <li>・避難訓練や、各種講演会等の啓蒙活動等を通じた危機管理意識を高めるための取組を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴川高校が地域の避難場所として指定されているので、万が一の時の迅速な対応をお願いしたい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、町のハザードマップの改訂に伴い、危機管理マニュアル等の見直しを進める。</li> </ul>	
中高一貫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高を通して育成したい生徒像を踏まえた「むかわスタンダード」の作成及び取組を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との連携がコロナ禍で制限されていますが、よりよい連携の仕方を今後とも進めていきたい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同授業の設定など中高教員が連携する場面の設定を進める。</li> <li>・今年度小中高の連携で作成した国数英の3教科のスタンダードを踏まえて、学びの接続に活かす。</li> <li>・中高連携学習において中学生がICTを使う場面の設定する。</li> </ul>	
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けさせたい力を踏まえ、高校魅力化コンソーシアムを活用し学校外に開かれた教育活動を実施できた。</li> <li>・各種報道機関、HPや学校だより、学校説明会、SNS等を活用した積極的な教育活動に係る情報提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1事業所に多くに生徒の受け入れ等偏りが無いように、デュアルの事業所の拡充、業種の拡大については、連携を図りながら進めていければと思います。</li> <li>・公営塾の設立は高校のみならず、むかわ町の教育体制の推進につながったと思</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域をキャンパスとし生徒の特性や能力を伸張させる探究的な学びへのワーキンググループを主体とした全校的な取組を推進した。</li> <li>・日常からの効果的な情報提供等を通して、公務員としての服務規律の厳守にかかる意識を高揚することができた。</li> <li>・部活動における休養日等を完全実施できている。</li> </ul>	<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の生活拠点は三氣塾でも良いのではないのでしょうか。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度はコンソーシアム登録の事業所の拡充、業種の拡大を図り、生徒の進路に合わせた幅広い分野の地域企業でのデュアルシステムを実施していく。</li> <li>・本年度は新たに公営塾スタッフ2名を加え、学校魅力化コーディネーターとの協働体制が確立できたので、次年度はそれを発展させていく。</li> <li>・次年度の留学生は1名確定しているので、地域や学校の中で活躍させたい。</li> <li>・学校HP、学校だより、Facebook、Twitter、インスタグラムなど様々なSNSを活用して情報を発信していたので次年度は更に発信数を増やす。</li> <li>・複数担任制をとることにより、生徒対応が手厚くなり、課程との連絡など滞ることなく行えたので、次年度も実施する。</li> <li>・職員の勤務時間への意識の改革を図り、地域、保護者の理解を求めながら、部活動等の課外活動の時間を削減する。</li> <li>・生徒の学習集中期間での定時退勤日を設定し、17時完全退勤を推進する。</li> </ul>	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページを通して行う。</li> </ul>	

### 3 添付資料

- (1) 令和3年度 自己評価書
- (2) 令和3年度 学校関係者評価
- (3) 令和3年度 学校評価アンケート集計結果